

中津川市地域医療実習 感想文

福井大学 3年生

初めに、実習先の職員の皆さまや、指導医・看護師・その他の医療従事者の皆さま、中津川市地域総合医療センターの皆さま、そして実習先の施設の利用者の皆さま・患者様方の実習へのご協力に、心より御礼申し上げます。皆さまのお陰で、大変有意義な5日間にする事ができました。

私がこの地域医療実習に参加しようと思った理由ですが、実際に医師はどのように診察を行っているのか、他の医療従事者の方々との連携はどうなっているのかといったことを今の時期から学び、そして医師の仕事だけでなく、保健・介護・福祉に関しても理解を深めたいと考えたからです。今まで大学のカリキュラムでは臨床体験実習といった、実際の診察を見学・体験するような実習は無く、コロナ禍の影響もあって地域医療実習も中止となったため、今まで医療・保健・介護・福祉の現場を実際に見ることが一度もできていませんでした。医師の視点からだけでは無く、地域全体から見て、医療は何を求められているのか、自分はどのような医師になりたいのか、といったビジョンをはっきりさせるためには、身をもって生の現場を体験することが必要不可欠だと考えていたため、この地域医療実習はまたとない機会だと思い参加をさせていただきました。

「阿木診療所」、発達支援センター「つくしんぼ」、社会福祉法人敬愛会「シクラメン」、「蛭川診療所」、パーソナルドア(株)就労継続支援B型事業者など、地域包括ケアに深く関わる施設を訪問し、また、市役所の高齢支援課訪問指導にも同行したことで、地域包括ケアシステムの具体的な形、その重要性を身をもって学ぶことができました。

阿木診療所では、伴先生のご指導の下、外来診療を見学し、医療面接の体験も行うことができました。外来診療の見学では、伴先生が患者さん一人ひとりにじっくりと時間をかけて診察し、症状の検査・治療のみならず、その患者さんの生活背景(どのような暮らしをしているのか、家族や地域の方との関わりはどうか、何に困っているのか、何を希望しているのか等)までしっかり目を向けて診察されている様子を拝見し、私もこのような医療を実践したいと強く思いました。また、実際に患者さんの血圧を測定したり、待合で患者さんとじっくりお話しする機会も頂き、この体験から得たものは非常に大きかったです。今回の

実習では、診察までの待ち時間に患者さんとお話をし、患者さんの生活背景について主にお話を伺いました。この体験で、その人の生活背景と健康状態は切っても切り離せないもので、生活背景から疾患の原因や解決法が見つかることも多々あるのだろうと感じました。コミュニケーション技法についても伴先生からアドバイスをいただき、それをしっかり実践できるよう意識しながら行いましたが、患者さんにできるだけ自由に話してもらえよう、話を促すにはどうしたらよいのか考えながら、質問の仕方や非言語的メッセージ(視線、仕草、声の調子など)を工夫して積極的な傾聴を心がけました。今まで診察におけるコミュニケーション技法について座学で習ったことはありましたが、実際の患者さんに対して実践したことがなかったため、今回の実習でそれを実際に使える知識として身につけることができ本当に良かったです。しっかり患者さんのお話を聞き、病気ではなく患者さんという1人のヒトを診る、という心構えで、これから医療に携わっていきたいです。

蛭川診療所では、榎間先生の診察を、説明を受けながら見学しましたが、ここでは榎間先生が全ての患者さんに対して聴診・触診を行なっていたのが大変印象的でした。この診療所では、大学病院や大きな市中病院のような検査が行えないけれども、聴診や触診で得られた身体的所見で、重大な疾患を発見することができたエピソードなどを聞き、改めて聴診・触診など、特殊な機器を使った検査ではない基本的な診察の大切さを感じることができました。

発達支援センター「つくしんぼ」では、未就学のお子さんに対する発達の支援を、職員の方や保護者の方と共に体験させて頂きました。この施設では、基本的にお子さん1人に対して1人の職員の方がついて個別指導を行っており、一人ひとりに合った接し方、声の掛け方、遊具や道具で、遊びを通した療育が行われていました。ここでは、子どもは遊びの中から様々なことを学んでいくこと、それぞれの子どもの課題に応じた療育方法が重要だということを学び、そして、一口に同じ障害を持った子どもさんといっても、その程度の重い軽い、苦手なことや得意なこと、好き嫌いが一人ひとり大きく異なり、誰一人同じ子はいないという大切なことを改めて実感することができました。障害に対する教科書的な知識・イメージとは違っていることが多くあり、やはり実際に触れ合って、その子個人を理解することが大切なのだとは強く感じました。また、この施設では子どもさんに対する療育だけでなく、職員の方が保護者の方ともじっくりお話をし、指導や相談を丁寧に行われていたのが印象的でした。個人的に、「つくしんぼ」

での経験は、この地域医療実習の中で最も印象的で心が動かされた実習の1つです。

社会福祉法人敬愛会「シクラメン」では、特別養護老人ホーム、グループホーム、デイサービスの様子を見学させていただき、利用者の方々とお話をしたり、「フレイル予防」に関するミニレクチャーをさせていただく機会も頂きました。「シクラメン」では、志水さんや理学療法士の原さんより、地域包括ケアのお話をお聞きし、その重要性や、具体的な取り組みを知ることができました。医療・介護以外でも地域で支えられる仕組み、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムを作り上げ、地域全体で連携して、人々の暮らしを支えることが重要であるということ、シクラメンでの実習で身近な問題として理解することができました。行われている様々な取り組みも紹介していただき、問題の解決のために尽力なさっている姿を見て、私自身も何か出来ることはないだろうか、その地域において医療・医師は何を求められているのだろうかと深く考えるきっかけとなりました。

最後に、改めてお世話になった皆さまに、心から感謝申し上げます。お忙しい中、丁寧にご説明・ご指導していただき、私たちの質問にも誠実に答えてくださって、感謝の気持ちでいっぱいです。何もかも学ぶことばかりで、刺激に満ちた濃厚な5日間でした。本実習で得た貴重な経験・知識・発見を土台に、さらに学びを深めていく所存です。お世話になった皆さま、本当にありがとうございました。